

ショートピース！仙台短篇映画祭

東日本・映画祭ネットワーク

声明文

今年3月11日に発生した東日本大震災は、東北各地に大きな被害を与え、5ヶ月が経過した今もなお、深い爪跡を残しています。また、震災は、私たちの日々の営みを奪いました。私たちは、水やおにぎりだけでは生きていけません。ラジオから音楽が流れ、テレビでニュース以外の映像を目にしたとき、私たちは、どれだけ自分の心が渴いていたかを思い知らされました。

そして、3月末に、仙台街中へ映画館の灯りが再びともったときの、喜びと安堵を忘れることができません。そこには、懐かしくも忘れ難い笑顔が集まりました。映画が日常に戻ってくるにつれ、人々が娯楽や文化を日常的に楽しみ、心豊かな生活を取り戻すことが、仙台復興の最終地点である、と私たちは確信を強めつつあります。

映画を観たいと素直に感じ、映画の楽しみ方を選ぶことができる当たり前であったはずの幸せを取り戻すべく、私たちは、震災直後から連絡を取り合い、今年も映画祭を開催することを決定しました。

それは、例年と異なり、場所探しや資金集めからのスタートを意味しましたが、異論を唱える者は皆無であったことを申し添えます。映画祭は、作品や監督、観客ひとりひとりと出会える場です。映画祭は、映画を通して地域や人のつながりを実感し、新しい何かを生み出す原動力となります。私たちにとって、映画祭開催は、新たな日常への大切な一歩なのです。

今年、そしてこれからも、仙台という場所で映画祭を継続し、豊かな出会いの場を築いていくことを、ここに宣言します。復興の道は長くながりますが、映画祭が、その道しるべとなることを願ってやみません。

2011年8月11日
ショートピース！
仙台短篇映画祭実行委員会